

令和6年度 学校評価アンケート結果の分析と改善策について

今年度の学校評価に多数のご協力をいただき感謝申し上げます。集計結果について以下のとおりご報告いたします。
利府高校をさらに良い学校へ、また活気溢れる学校にしていこうという生徒・保護者の皆様の思いや期待に添えるよう取り組んで参ります。
今後とも学校運営に関しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、集計結果（実現度調査）の詳細については、本校ホームページ[https://rifu-h.myswan.ed.jp/evaluated]をご覧ください。

実施日：令和6年11月22日（金）
回収日：令和6年11月29日（金）
対象：生徒（回答数740名 回答率95.0%）、保護者（回答数575名 回答率73.8%）、教職員（56名）
「よく出来ている」、「大体出来ている」、「あまり出来ていない」、「出来ていない」の4段階による評価



実現度調査の分析と改善策【全年次共通】

Table with 5 main columns: 分掌, 実現度調査 質問項目, 良好ととらえている割合, 前年度比, 分析, 改善策. Rows include categories like 教務, 生徒指導, 進路指導, 健康教育, 部活動, 生徒会活動, 企画情報, 総務, 事務, 生徒指導, 健康教育.

| 実現度調査 質問項目 | | 良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」 | 前年度比 | 分析 | 改善策 |
|------------|---------------------------------------|------------------------------------|------|-----|---|
| 教務 | 家庭学習を含めた自主・自立的な学習態度を育成している。 | 生徒 | 89% | 0% | 生徒の肯定的な回答は前年度同様高い水準を保っている。教職員による肯定的な回答は前年度より8%減少した。これは前年度から導入したスタディサプリによる生徒の自主・自立的な学習態度が本気で育成されているのか、また学力向上にスタディサプリが効果的な役割を果たしているのかを検証する必要がある。 |
| | | 保護者 | 74% | -3% | |
| | | 教職員 | 64% | -8% | |
| 教務 | 進学先の学業に対応できる学力を養成している。 | 生徒 | 93% | 1% | 教職員の回答が5%減であった。最近の進路実績によると思われる。学習や部活動の実績を生かした総合型選抜で受験する生徒が多いのは本校の特色でもあるが、一般入試に挑戦する生徒が減少傾向にあるのは生徒の学力養成が不十分なのか、進路に対する意識に変化が生じているかを検証する必要がある。 |
| | | 保護者 | 78% | 0% | |
| | | 教職員 | 70% | -5% | |
| 進路指導 | 3年間を見通した計画的・継続的な進路指導体制が確立されている。 | 生徒 | 95% | 2% | 肯定的な回答の割合は、生徒は前年度と比べてやや上昇しているものの、保護者及び教職員はやや減少している。「総合的な探究の時間」を中心に3年間を見通した指導計画を作成しており、生徒及び保護者に対して、一定程度ではあるが本校の進路指導体制が周知されているものと思われる。しかしながら、指導内容をより充実させるため、指導内容の見直しも必要である。 |
| | | 保護者 | 82% | -1% | |
| | | 教職員 | 84% | -5% | |
| 進路指導 | 「総合的な探究の時間」における進路指導が充実している。 | 生徒 | 96% | 4% | 肯定的な回答の割合は、生徒は前年度と比べてやや上昇しているものの、保護者及び教職員はやや減少している。年々、「総合的な探究の時間」の指導内容を見直ししており、前年度の問題点を踏まえながら次年度の指導計画を作成している。しかしながら、保護者及び教職員が求める指導内容には達していないものと思われる。 |
| | | 保護者 | 82% | -1% | |
| | | 教職員 | 80% | -4% | |
| 進路指導 | 個に応じた適切な進路指導が行われている。 | 生徒 | 93% | 2% | 肯定的な回答の割合は、生徒及び保護者は前年度と比べてやや上昇しているものの、教職員はやや減少している。昨年度よりははやや改善が見られるが、生徒や教職員と比較すると保護者の肯定的な回答の割合が低い。家庭との連携を図りながら3年次の受験指導を中心に生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を実践することが必要であると思われる。 |
| | | 保護者 | 81% | 3% | |
| | | 教職員 | 86% | -5% | |
| 健康教育 | 全校清掃、校内外の美化活動を実践している。 | 生徒 | 94% | 2% | 肯定的な回答の割合は、生徒が94%・保護者が91%で前年度と比べるとやや上昇しているが、教職員は84%で前年度と比べると大幅に減少している。 |
| | | 保護者 | 91% | 1% | |
| | | 教職員 | 84% | -5% | |
| 図書視覚 | 「人の集まる図書館づくり」に努め、学習センターとしての機能が充実している。 | 生徒 | 87% | 4% | 昨年度と比べ、良好と捉えている割合が生徒・保護者・教職員ともに上昇している。今後は、図書館運営においてさらなる啓発活動をおこない図書館の情報発信をしていきたい。図書館に設置されているパソコン・iPadのIT機器が整い、調べ学習や進路にむけて生徒たちにとって利便性が増していると考えられる。 |
| | | 保護者 | 79% | 1% | |
| | | 教職員 | 82% | 9% | |
| 健康教育 | 衛生管理を徹底し、生徒の健康の保持増進に努めている。 | 生徒 | 94% | 3% | 生徒・保護者・教職員の良好と捉える数値が少しずつであるが上昇している。感染対策を講じながら衛生管理を行っており、学習環境の整備も少しずつはあるが改善していると考えられる。 |
| | | 保護者 | 85% | 1% | |
| | | 教職員 | 93% | 1% | |
| 総務 | PTAや同窓会活動の充実に向けている。 | 生徒 | — | — | 肯定的な回答の割合は、保護者93%・教職員98%となっている。PTA活動や同窓会活動について行事案内や広報活動を行っていることが、ある程度評価されている。一方で「あまり出ていない」「出ていない」と評価する保護者については約7%弱と昨年度より3ポイントほど低くなっているものの一定数いることから、更なる活動内容の周知を図り、改善を図ってほしい。 |
| | | 保護者 | 93% | 3% | |
| | | 教職員 | 98% | 1% | |

実現度調査の分析と改善策【1年次】

| 実現度調査 質問項目 | | 良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」 | 前年度比 | 分析 | 改善策 |
|------------|---|------------------------------------|------|-----|--|
| 1年次 | 体験学習（大学見聞会）を通して、学問研究の場に直接触れることにより、大学で学ぶ意義について学習し、進路に対する視野を広げる指導が行われている。 | 生徒 | 94% | 2% | 大学見聞会などを通して進路に関する基本的な情報を得ることで、大学で学ぶ意義や進路に対する視野を広げられたと捉えることができる。しかし進路が未定の生徒や、進路について迷っている生徒も多く、進路目標を1つに絞り、達成に向けて具体的な姿勢や行動が見えないことから、22%の保護者にとっては肯定的に捉えられない部分があると考えられる。 |
| | | 保護者 | 78% | -3% | |
| 1年次 | 継続的に週末課題を実施することにより、家庭学習の習慣化が図られている。 | 生徒 | 95% | 1% | スタディサプリを使って国・数・英を中心に継続的に週末課題を実施しているが、ほとんどの生徒は習慣的に取り組んでおり、95%という高い自己評価率につながっているものと考えられる。しかし、保護者から見れば、それらの取り組みが、成績や模試の結果につながっているという明確な実感が得られていないことから、生徒と比べ16%低い評価になっているものと考えられる。 |
| | | 保護者 | 79% | -2% | |

実現度調査の分析と改善策【2年次】

| 実現度調査 質問項目 | | 良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」 | 前年度比 | 分析 | 改善策 |
|------------|---|------------------------------------|------|-----|---|
| 2年次 | 一日総合大学を通して、実際の大学の講義を体験し、進路選択についての意識を高める指導が行われている。 | 生徒 | 97% | 2% | これまで総合的な探究の時間で取り組んできた探究学習をもとに、各自が目指す進路希望先へ向けた内容を整理し、より発展的なものへ仕上げられるように進路別学習などを通して進めていきたい。また、進路達成に向けて必要なことについては、早めに調べ行動するようになり、進路別学習や面談などを通して、できる限り丁寧に情報を提供しながら生徒の進路達成に向けて支援していきたい。 |
| | | 保護者 | 86% | 5% | |
| 2年次 | 自学自習の習慣を定着させるため、週末課題等の実施が継続的に行われている。 | 生徒 | 97% | 0% | 昨年度からスタディサプリを導入し、国・数・英を中心に週末課題を継続的に実施した。ほとんどの生徒はオンラインで配信される課題に抵抗なく取り組んだようで、実際に提出率も高いことから高い評価率につながったのではないかと考えられる。同時にタブレットの導入で、生徒の取り組みが家庭でも見られたことから、昨年度比で4%落ちたものの保護者も比較的良好と捉えたものと考えられる。 |
| | | 保護者 | 79% | -4% | |

実現度調査の分析と改善策【3年次】

| 実現度調査 質問項目 | | 良好ととらえている割合 「よく出来ている」+「大体出来ている」 | 前年度比 | 分析 | 改善策 |
|------------|---|------------------------------------|------|----|---|
| 3年次 | 放課後や夏季休業中の課外講習を計画的に実施することにより、恒常的な学習習慣を呼びかけている。 | 生徒 | 95% | 1% | 95%の生徒から肯定的な見方があった背景には、1年次から継続してきた平日課外講習と長期休業期間中の課外講習を計画的に実施することで、特に進学を希望する生徒たちにとって、恒常的な学習習慣の意識付けが定着したことへの評価として見てとれる。 |
| | | 保護者 | 82% | 0% | |
| 3年次 | 希望する進路に応じたガイダンスや学習会を実施し、より明確な目標と学習計画が立てられるような指導が行われている。 | 生徒 | 96% | 6% | 総合的な探究の時間で年間17回進路別ガイダンスを実施し、その時期毎に必要な準備を確認しながら進めた。周囲の生徒の進捗状況も意識させながら計画的に準備を進めることができたことへの評価が、96%の生徒による肯定的な見方に至ったものと思われる。 |
| | | 保護者 | 85% | 2% | |